

SSAの英語で丸暗記の勉強方法から卒業しよう!

SSAの英語授業は、英文法・英文を構成している原理・原則を根源から納得するまで徹底的に解説し、その定着を豊富な演習や宿題を通して図ります。たとえ教科書や文法書にも載っていない事項であっても、根源から理解する上で必要なことは積極的に扱います。そして、根源から理解した文法を使って長文を考えながら読解する訓練をします。

普段は、大学入試を念頭に置いた「受験英語」を扱い、定期テスト前には、教科書に沿った「対策演習」を学校ごとに行うことで高得点を目指します。

～高校生の皆さんへ（英語編）～

①英語は単なる暗記科目ではない！

「英語は暗記科目だ」、「英語（長文）は単語や熟語を覚えれば点が取れる」という声が巷にあります。確かに、英語は最低限の単語や熟語を覚えていなければどうにもならないですし、定期テストは教科書やワークの解答を丸暗記すれば正解できることが珍しくありません。しかし、そのような勉強方法は大学受験では到底通用しません。暗記する前提に理解を伴っていないければ、単なる意味のない記号の羅列を覚えているのと変わりません。せっかく丸暗記しても、全く同じ問題が出ない限りは使えない知識になってしまいます。つまり、貴重な時間と労力は無駄になってしまいます。

近年の英語の入試の問題は、大学入試改革を反映して、単純な知識の有無だけを問うものは極端に減少しており、難関大学の入試問題ほど、知識を前提として思考力や表現力を必要とする出題が増えています。この入試問題の変化に対応すべく、SSAでは極力丸暗記を排除して、理解を伴った暗記、暗記した知識を使って「考える英語教育」を実践します。

②英文法を極める者が長文問題を制する！

英文法は英文を構成している絶対的な基本ルールであり、根底には成り立ちがあります。そのルールに沿って英文が書かれ、それが集まって長文を構成しているので、長文読解をする上では英文法を根源から理解することが不可欠です。SSAの英語授業では、英文法の徹底理解を重視し、英文法の理解を長文読解に繋がられるように授業を構成しています。

③自分の英語力を客観的に知ること！

中学の時に英語が得意だった、高校の定期テストで点が取れているから安心とは考えないでください。定期テストで点が取れているから安心していましたが、高2・高3になって模試で全然点が取れなくなってから自分の英語力のなさに慌てるケースが多いです。

SSAでは、授業内外でのやり取りを通して、個々の生徒の客観的な英語力を把握し、必要な生徒には個別にフォローして、大学受験に通用する英語力の底上げを図ります。